目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第３２号　2006年9月　発行人：加藤　栄護　編集長：外岡　明　事務局長：吉田　博行

事務局：〒153-0053　目黒区五本木2-47-5　Tel 03-3713-2096

第７回　定時総会開催

2006年7月1日（土）こまばエミナースにおいて63名の出席を頂き目黒稲門会第7回定時総会が開催された。

石川智子幹事の司会により、先づ前年度に他界された福田靖夫会員のご冥福を祈り黙祷を捧げた。

次いで、本日のご来賓として次の方々が紹介された。

小林栄一郎　早稲田大学副総長

広瀬　剛　早大創立125周年記念事業募金局課長

小太刀昌雄　稲門祭福引販売・記念品本部副部長（荒川稲門会）

佐藤裕彦　稲門祭福引販売・記念品本部担当（太田稲門会）

青木英二　目黒区長（懇親会のみ）

続いて、加藤会長より次ぎの様な開会の挨拶があった。

月日の経つのが早くて2006年もアッと言う間に終ってしまうのではないか。毎日充実感を感じながら元気に過ごしたいものと思う。幸い目黒稲門会には多くの部会が出来ており大いに活用して頂きたい。皆様のご協力で目黒稲門会は7年を経過することが出来た。来年は早稲田大学創立125周年の記念すべき年となる。目黒稲門会もその一翼を担いたいと思う。

次に挨拶に立たれた小林副総長は、母校の近況を縷々話されたが、冒頭で最近話題の理工学部松本教授の国からの研究費不正受給不正流用事件並びに論文捏造疑惑事件が大きな騒ぎとなり、総長選にも絡んで校友の皆様には大変ご心配をお掛けしたとしてお詫びの言葉があった。

次いで総会に入り、横山副会長に議長を委嘱。次の議案が順次討議され異議なく採決された。

(1)平成17年度事業報告

(2)第7期決算並びに監査報告

(3)平成18年度事業計画

(4)第8期予算

(5)平成18年度新役員54名

うち、新任役員3名

安藤嘉昭　岩佐好恭　小杉　哲

なお、議案(1)の後で我が目黒稲門会の誇る各部会の活動報告があった。旅行部会、美術歴史鑑賞部会及びウォーキング部会については各部会長より、カラオケ部会、グルメ部会、ゴルフ部会、麻雀部会、囲碁部会、三土会並びに会報編集委員会、ホームページ担当については事務局長より一括報告された。

総会終了後は隣室に移り、引続き石川幹事司会で恒例の懇親会を開催した。

先づ、駆けつけて頂いた青木区長のご挨拶を頂戴した。その中で、目黒区は地震に強い区を目指す。今年度から耐震診断費全額補助、補強工事補助を始めた。1ヶ月で100件を超えている。地域の皆様の協力をお願いしたいとの話があった。

次に広瀬募金局課長より、2007年の創立125周年記念事業に向って学内にカウントダウンの掲示板を出した。200億円募金目標達成のため近々大学から振込用紙同封で支援の依頼が届くので協力願いたいとの要望があった。

続いて眞仁田相談役の発声により目黒稲門会の益々の発展を祈念して乾杯し、懇親会に入った。

懇談の輪が広がる中、浅海幹事長、小野幹事は稲門祭福引担当の小太刀氏・佐藤氏と共に引換商品の

会場を盛り上げるチンドン研究会

見本を携えて協力依頼に廻り、累計で割当目標を上廻る好実績をあげた。

途中、予てご案内の早稲田ちんどん研究会現役学生5名の“チンドン隊”が演奏しながら賑々しく登場。ちんどん演奏をバックに“南京玉簾”や“鯛の一本釣”ほかを披露。更には会場を練歩き福引券売込みの口上を述べる等して大喝采を博した。

次いで、土川副幹事長より総会初参加の岩佐幸子氏、田中三郎氏、松田哲也氏の紹介があり（下段写真掲載）、ご本人より一言挨拶を頂いた。

続いて海口カラオケ部会長が登場。部会員3名でちんどん演奏をバックに“東京ラプソディー”ほかを熱唱し、会場は最高に盛り上った。

かくして時は瞬く間に過ぎ閉会の時間が迫った。恒例となった伏見会員のリードで全員が肩を組んで一つの輪となり「都の西北」を斉唱した。最後に八幡副会長の中締め挨拶をもって散会となった。

（島田　記）

初参加 会員紹介

写真　右から

田中　三郎氏（昭和25年 商）

岩佐　幸子氏（昭和35年 法）

松田　哲也氏（平成元年 社会中退）

目黒稲門会　第7期　決算報告書

（平成17年4月1日～平成18年3月31日）（単位＝円）

	科目	実績	予算	備考
収入	前期繰越金	332,606	332,606	
	年会費	702,500	700,000	5,000×136名 2,500×9名 合計145名
	総会収入	462,000	480,000	8,000× 54名 5,000×6名 合計 60名
	新年会収入	584,000	480,000	8,000× 68名 5,000×8名 合計 76名
	早大校友会	180,000	180,000	組織強化費
	雑収入	3,002	0	利息他
	合計	2,264,108	2,172,606	
支出	総会費	415,698	480,000	会場費、バンド代他
	新年会費	417,931	480,000	会場費、講師謝礼他
	会報	358,700	400,000	会報印刷代
	部会運営費	70,000	70,000	ゴルフ、カラオケ、囲碁、旅行、美術歴史、麻雀、グルメ
	会議費	27,100	20,000	幹事会、会報編集会議会議室使用料
	交際費	137,330	250,000	東京23区幹事会、及び他稲門会参加費等
	通信費	172,260	100,000	会報発送費他
	事務用品費	135,283	50,000	目黒稲門会角封筒代他
	交通費	2,380	5,000	
	ホームページ	33,168	70,000	ニフティ月額使用料
	雑費	37,890	60,000	会費振込手数料他
	次期繰越金	456,368	187,606	
	合計	2,264,108	2,172,606	

注1.　次期繰越金内訳

三菱東京UFJ銀行	学芸大学駅前支店	450,546円
三菱東京UFJ銀行	中目黒支店	863円
郵便貯金		4,959円
合計		456,368円

監査報告書

私たち会計監事は、平成17年4月1日から平成18年3月31日までの第7期会計年度の会計報告を監査いたしました結果、適正かつ正確であることを認めます。

平成18年4月7日

目黒稲門会　会計監事　島田久家　印

会計監事　林田雅敏　印

目黒稲門会　第8期　予算

（平成18年4月1日～平成19年3月31日）（単位＝円）

収入

科目	金額	備考
前期繰越金	456,368	
年会費	700,000	5,000×140名
総会収入	480,000	8,000×60名
新年会収入	480,000	8,000×60名
早大校友会	180,000	組織強化補助金
合計	2,296,368	

支出

総会費	480,000	
新年会費	480,000	
会報	400,000	会報印刷代
部会運営費	40,000	ゴルフ、カラオケ、囲碁、麻雀
会議費	30,000	会議室使用料
交際費	150,000	東京23区幹事会、他稲門会参加費等
通信費	200,000	会報発送費他
事務用品費	150,000	目黒稲門会角封筒代他
交通費	5,000	
ホームページ	35,000	ニフティ月額使用料他
雑費	50,000	会費振込手数料他
次期繰越金	276,368	
合計	2,296,368	

注：部会運営費は会員が固定している4部会（ゴルフ・カラオケ・囲碁・麻雀）だけに定額支出（10,000円）としました。他の部会は、案内状等の通信費を実費請求として精算する事にして、通信費予算を増額してあります。

リレー随筆

綱差役　川井権兵衛の事

川井 信義（昭和32年 政経）

八代将軍吉宗の時に復活した鷹狩に伴い江戸城の周囲数里の所に品川、目黒、中野、戸田、岩淵、葛西と6筋の幕府直轄の狩場が出来、各筋に管理者で武士の鳥見役1名、その下に綱差役1～2名、その他見習いが置かれ村民を使って狩場の整備運営が行われました。この綱差の仕事は狩場の整備、鶴・雉・鶉等の捕獲・養殖そして鷹狩の時、予め羽を少し抜き取った鳥類を適時適所で放ち鷹に確実に獲物を取らす陰の演出者となる事が主たるものでした。

さて初代川井権兵衛は雉取りの名人と言われ現在の町田市野津田町の出で吉宗将軍の享保3年江戸に召し出され同6年正式に目黒筋の綱差役に任命されました。その後目黒筋の綱差は川井家の世襲となり権兵衛を襲名し幕末迄約150年間7代に及びました。大した身分でないのに実子相続は1回、実弟相続2回、養子相続が3回と相続願状からも家格の維持存続に異常な執念を燃やしたことが伺われます。

古地図から見ると目黒筋狩場は現目黒区駒場の東京大学教養学部、駒場公園、東大宇宙研、駒場野公園一帯であり、別に役人宅及び附属薬草園等が現都立駒場高校、都立芸術高校、警視庁第三機動隊辺一帯に在りました。この両所を駒場高校旧正門を北行する御成道で結んでいました。又古文書からは現目黒、世田谷区間での各種鳥、幼鳥捕獲数量、従業人数、養殖技術、飼料種類費用、保湿材料費用、養殖小屋の様子などを知る記録が残されています。中で特に面白いのは権兵衛を筆頭に6筋綱差役全員によるベースアップ願状、苗字帯刀願等、実質の生活向上と身分名誉への願望には切々たる感があります。更には仕事に関して村民宅で酒食の接待を受けぬ事、袖の下を受けてはならぬ事等を諌めた書状、将軍御成を要請する願状に対し平常の整備準備不足に拘らずに御成要請は図々しいと鳥見役、綱差役共々に叱責された上からの書状も残っており、興味を覚えます。

なお『権兵が種まきや烏がほじくる、三日に一度は追わずばなるまい、ズンベラズンベラ…』という俗謡については、川井権兵衛が雉を捕る時、笹薮を一部切り開き一坪ばかりの畑を作り大豆をまいて捕網を仕掛け、密かに待つ間に烏が来て好物の大豆を横取りする。その烏を追う権兵衛の姿を嘲笑っての歌だとする話がありますが、2代権兵衛と同時代に三重県海山町に武士を嫌い百姓に転職した鉄砲狩猟の名人で村民の人気者の上村権兵衛なる人が居りました。この人は百姓仕事が下手で畑にまいた大豆を鳥にさらわれ往生する姿を村民が囃した歌だと海山町観光案内書に出て居ります。何れの眞偽はさて置いて郷土の歴史に笑いを添えるほほえましい小話と受け取ればよいと思います。

綱差役の禄高は精々5人扶持程度、鷹狩等で頂く褒美金がボーナスの様なもので極めて苦しい生活でした。然し職務への責任から懸命に幕府体制の下級小役人として過ごした7代の権兵衛の姿をしのんで頂ければ幸甚であります。

（尚、現駒場一丁目在住の私の兄、川井康男は10代目当主であります。）　以上

会員の広場

初参加、新たな出会い、ふれ合い旅を満喫！

安藤 嘉昭（昭和42年 法）

私は定年後「人に、自然に、健康に感謝！今を大切に生き生きと！」をモットーに、生まれ育った目黒、地域のお役に立てる事はないかと「百見は一実行に如かず」を実践し、行動してきました。

そこから新たな「出会い」や「ふれ合い」が生まれ、それが生きがいにつながる。こんな想いから今回の旅に参加させて頂きました。

初めて参加の旅で、私は思いがけない多くの歴史や先人の想いに出会い、稲門会の皆様との心のふれ合いを楽しませて頂いた大変有意義な旅でした。

出会いその一、旧水沢市が高野長英氏、斉藤實氏、後藤新平氏など幕末から近代の優れた先人を生んだ土地であった事、これらの人々の「人を愛し」「国を愛す」考えや行動が現在に生きている素晴らしさと、このような人々の努力があって今の我々がある事の感慨に浸りながら、以前は般若心経に学んだ、時を超え今も活き続ける智恵に触れた感動を、久しぶりに思い出しました。この旅への参加大正解！

その二は八幡家の歴史と展示品を守ってこられた八幡氏の想いと野球や碁の歴史にまでに及ぶ心のこもったお話を伺う事ができ、貴重な体験をさせて頂きました。

続いて後藤新平記念館で拝見したCITIZENの文字と展示物。30余年間社員として氏が社名の名付け親である事は当然知っておりましたが、その卓越した考えや行動をもっと早く知り行動を取っていたら、一層の飛躍が図れた（？）のではと遅まきながら感じたこれも大変有意義な瞬間でした。

翌日はさらに歴史を遡って初めて訪れた毛越寺の遺跡や建物、そして北上の流れと芭蕉の足跡を見聞し、この土地が育んで来た素晴らしい文化と歴史に触れ、今も変わりなく続く「人の争い」に自然に思いを馳せてしまった思い出深い旅となりました。

最終章は初参加の旅の「期待以上の出会いとふれ合いの感動」に対する「感謝」で決まり！

それはこの旅が、初参加の私にとって目黒稲門会の皆さんの心に触れた「大変居心地の良いもの」であった事でした。

やはり早稲田は素晴らしい。Ｔｈｅ Ｅｎｄ！

本当にありがとうございました。

最後に目黒稲門会諸先輩方のお気遣いに心よりお礼申し上げ、今後も機会を捉えて積極的に各種の行事に参加させて頂く事をお約束し、初参加の旅の感想を終わらせて頂きます。

「六根清浄」制作に当たっての感想

佐伯 文子（昭和51年 文）

朝日を浴びてぐんぐんと力が漲る真っ赤な富士山を、八合目の白雲の雲海が渦巻き躍動して行く様とともに、明るい七色の虹色で大空と雲海を表現し描きました。

旭日丘と云う所は、朝日の赤富士が一番美しいそうです。　（石原裕次郎の別荘が在る所）

私は、今回で５回富士山に登っています。

『六根清浄　お山は晴天』と言いながら八合（胸突き八丁）、九合、頂上と登って行きます。

雲海を見下ろし、まるで仙人になった気持ちで、白雲を布団のように見ながら横になり、また夜中八合目あたりから下界の夜景が宝石の様にチラチラ光るのを見下ろしながら登り詰め、ご来光を頂上で見て拝みます。私にとって凄く感動の一瞬です。

開運になるよう真っ赤な富士山を描き上げました（右ページに掲載）。

ちょうどその頃、野球のＷＢＣが世界一優勝に輝き、とても嬉しかったです。

『ガンバレ日本!!。やったぜ日本!!』。そういう気持ちで『日本、勝てよ!!』。

奇跡の優勝で私にとって、とても嬉しい作品です。

各部会からの報告・案内

囲碁部会

6月10日（土）　第6回オール早稲田囲碁祭が、日本棋院市ヶ谷本院で１チーム５名の53チームが集まり開催された。

目黒は2チーム10名が参加、無差別クラスで準優勝を遂げ、実質天下第2位の実力を示した。Ｄクラスは、２勝２敗で下位に甘んずる結果となった。

(1) 今後の日程

平成18年　9月　1日（金）場所（下目黒住区センター）
　　10月　6日（金）時間（午後1時～5時）
　　11月10日（金）

(2) 第7回稲穂囲碁大会

平成18年9月24日（日）

早稲田大学　新学生会館

部会長　保井　正

麻雀部会

(1) 第14回三区連合親善麻雀大会

4月22日（土）渋谷の麻雀クラブ「スリーハンドレッド」に於いて本年第1回の渋谷・世田谷稲門会との親善麻雀大会が開催されました。今回は渋谷稲門会の主催でしたが、親睦を深めた半チャン4回の競技の結果、優勝は世田谷の江口氏、目黒は横山副会長が準優勝と健闘しました。

(2) 第26回定例麻雀大会

6月4日（日）武蔵小山の麻雀クラブ「サン」に於いて本年第2回目の麻雀大会が開催されました。和気藹々の競技の結果、優勝は鈴木、準優勝は本田、三位は吉川の各氏でした。

(3) 今後の大会予定

10月1日（日）12：30より、第27回定例麻雀大会を武蔵小山の麻雀クラブ「サン」に於いて開催予定しております。腕に自信のある諸兄もない諸兄も、是非参加して半チャン４回戦を楽しみましょう。

麻雀に興味をお持ちの会員の新規加入を歓迎いたします。ご連絡をお待ちしております。

部会長　松尾 洋一

グルメ部会

恒例好評の新そば会の季節となりました。

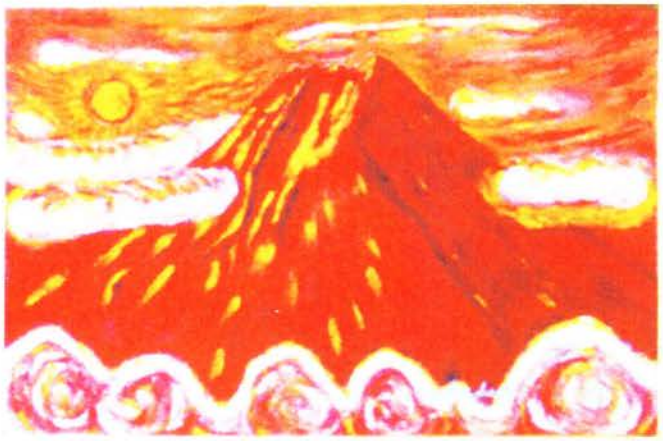
存分に新そば会席をお楽しみ下さい。

場所　麻布十番　更科堀井　3403-3401

日時　10月3日（火）10月7日（土）午後6時

部会長　海沼 美知子

（7頁につづく）



「六根清浄」

油彩・M４０　佐伯 文子（昭和51年 文）

河口湖から撮影した絵ハガキを元に1年掛かりで平成18年3月下旬頃完成。　（感想を「会員の広場」に別掲）

「渓　流」

水彩・Ｆ６・平成13年10月　藤岡 長世（昭和22年 法）

目黒稲門会旅行部会主催の「雲の上の紅葉栂池高原自然公園を歩く旅」に参加した時のスケッチを元にして描いた水彩画です。

会員ギャラリー

「Hexagon In Blue」

アクリル絵具・Ｆ３０

杉浦 良允（昭和41年 政経）

学生時代より絵を描き始め、空間と色彩をテーマに仕事の合間を見つけ続けてきました。
退職後、昨年４月「Space Y」で個展。
来年４月には銀座「シロタ画廊」にて個展開催予定。

「マロニエのモルダウ河畔」

油彩・F100　服部 尚彦（昭和35年 理工）

平成18年5月　東京都美術館「日府展」出展。
初めてF.100号２枚と上野を経験しました。
何事にも嵩張る事で一番苦労しました。館の80周年だそうで記念するタイミングと重なりました。

「アッ ちょうちょ だ」

写真　大野 利幸（昭和35年 理工）

この作品は、平成15年７月韮山・四日町の成福寺で蓮の花が見頃という時期に訪ねたときのものです。
偶然、飛んできた蝶が、花に止まった瞬間を写すことが出来、良い作品になったと思います。

特別寄稿

スローフード、その実りある世界

小野　満（昭和41年　商）

会報に何かを寄稿せよと、かねてより敬愛している畏友外岡編集長からご下命を頂いた。

昨今、食の安心、安全が、世間の耳目を集めていることもありスローフードにその題材を求めてみた。小生も過去にアートコーヒー、モスフードサービス等の外食産業界に席を置いていたこともあり、この題材には非常に関心があった。

現在も当該産業界とは、日本エヌシーアールの先輩でもあり、日本外食産業界の指導的役割を果たしている外食団体、日本フードサービス協会のファウンダーの一人である奥住正道氏が代表取締役会長を勤める㈱奥住マネージメント研究所の主席コンサルタントを勤めることもあって当業界とは関係が深い。

『スローフードのはじまり』

スローフードとは、一体なんであろう？スローフードは美食の国イタリアで生まれた。きっかけは、ファストフード最大手であるマクドナルドがイタリアの一号店をローマに開店したことによる。

良い悪いは別としてファストフードの共通理念はマニュアルによって厳密に管理され何処で食べようと何時でも同じ味のものが提供されれるという事である。この理念がコストの低減化と味の均一化を保持することになるのである。更にこの理念が強大なフランチャイズチェーン化をも招いた。このチェーン化によって、大量生産、大量流通及び食のグローバル化が推し進められ、世界中の料理方法が均一化、均質化の道を辿っているといえないだろうか。これでは何処へ行っても同じ物を食べさせられ、古来の食の伝統継承が図られず廃れてしまう恐れがでてきたのである。

これに危機感を募らせたのがイタリアのブラという小さな村の村民達であった。地域の伝統的な味や、家庭の味の美味しさを大切にしようということで始まった運動は最初は小規模であったが、そのうち燎原の火のように広がり、あっという間に一大勢力になった。これが世にいうスローフード運動である。

『スローフード宣言』

この運動は、フランス、ドイツ、スペイン、アメリカ、東欧諸国、そして日本等104カ国、合わせて約8万人前後の会員がいる。イタリア本国のコンヴィヴィウムである日本東京スローフード協会には、スローフードの主旨に賛同する個人であれば誰でも入会することができ、又、会員はイタリア協会本部に登録される。

また協会はその発足にあたりスローフードの歴史等を紹介したガイドブック『スローフード宣言』を発行した。

『子供達とスローフード』

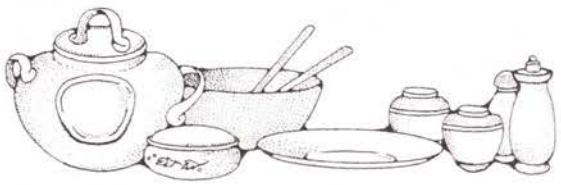
現代日本の食生活は大きく変貌してしまい、いつしか家庭の食卓を離れ、各自が都合のよい時間に好きなものを食べるといった傾向が散見される。

確かに、両親は不在がち、子供は塾通いとなるとなかなか各自食事のタイミングが合わせられない。一昔前のように一家団欒というのは難しいかもしれないが、なるべく家族が食卓を囲み、食事を摂るといった事を習慣化しないと大変危険な事になるのではないだろうか。

今、若者のキレるという嫌な言葉がはやっている。この原因の多くはおふくろの味を知らない若者が急増していることと無縁ではない。特に子供達に親が食品に対する教えを行なってはいないのではないだろうか。買い物の仕方を教えていないので、どういう商品を買うかをわからない子供達は、コンビニで好きな加工食品を自由に買ってきて好きに食べる。塩分・糖分過多は必然に起きてしまう。これが体内の栄養バランスを崩し、すぐイライラしたり怒りっぽくなったりする大きな原因となっている。

小生は現在、母校中目黒小学校のＰＴＡ顧問をしていることもあって、子供の食に対する動向には非常に関心をもっている。こういう傾向に楔を打ち込む有効な対策のひとつがスローフードといえるのではないだろうか。

現代の食の安全性の問題も、あまりにファストに傾いたことによる歪みから産まれたものであろう。でも遅くはない、日々のスローな食生活を実践することからこの関係を修復しようというのが、スローフードに隠された哲学であると小生は考える。



各部会からの報告・案内 のつづき

旅行部会

「みちのく水沢と平泉を訪ねる旅」道中記

5月7日8日の一泊2日の「水沢と平泉の旅」を募集しましたところ28名もの多数のご参加をいただきました。今回は「5月の美術・歴史鑑賞部会との共同開催」で、八幡部会長の水沢の由緒あるご実家を訪ねるという前評判もあり会員の皆様の関心が高い旅行となりました。

—5月7日（日）—

08：20　東京駅発「やまびこ45」に参加者全員無事乗車。「予約上では満車のはず」が、車内ガラガラの状態に「添乗員井村は言い訳にこれ努める」ことなりました。車内では早や宴会の風情もあり。

11：20　水沢江刺着。下車間際になって「某幹事が乗車券が無いと騒ぎ、結局見つからずのままに」駅員と交渉無事改札通過。八幡部会長の笑顔に迎えられて岩手県交通の専用バスへ乗車。

14：15　八幡さんのご実家訪問では、奥様のお出迎えを受け全員での記念写真撮影となりました。その後、ご丁寧な説明を受けながらの見学。「さすが留守藩お城のまん前の小姓頭、家老職の家柄の家」と感心しきりでした。

高野長英記念館、武家屋敷資料館、後藤新平生家、斉藤実記念館等の見学は八幡部会長のお顔での「各館長の説明つきという豪華さ」でありました。小沢民主党代表の事務所は見学できませんでしたが、椎名悦三郎の生家を見ることも出来ました。

18：00　天下の絶景 厳美渓に面したホテル渓泉閣に到着後、一日の疲れを取る風呂へ。

19：15　お楽しみの宴会開始。宿自慢の食事とお土産抽選会、有志によるカラオケは余興用の「かつら」をつけての熱唱に爆笑しきりとなりました。宴も尽きないところではありましたが、21：30よりはスナックを貸しきりでの二次会となり更なる「のど自慢大会」に大盛り上がりでした。

—5月8日（月）—

08：30　朝食後、ホテル前で記念撮影し、徒歩にて厳美渓見学。「郭公茶屋」からケーブルの籠で取り寄せる名物の「だんご」とお茶で朝の清々しいひと時を過ごすことができました。

09：15　今日も岩手県交通の運転手、ガイドの案内で平泉へ。専門ガイドと落ち合い毛越寺、義経堂、中尊寺の見学。ほとんどの方が中尊寺初めてのことで「金色堂」のすばらしさに圧倒される。

八幡邸前で

ガイドの駄洒落二つ。

ひとつ目　「金色堂を覆う建物は100年ごとに建替えられますが、次は44年後になりますので皆様その時も是非お越し下さい」

ふたつ目　「芭蕉の銅像がこちらにあります。皆様—どうぞう（銅像）こちらえー」

13：00　「ソバ庵しずか亭」にて昼食　大広間にはゆったりとした気分で前沢牛のすし、手打ちソバご膳で一杯（二杯三杯の人も）

桑野さんより旅行中の俳句紹介あり

里の田に　しぶき運ぶ　春の水　（厳美渓にて）
春寒に　鑓水涸れし　毛越寺
五月雨や　緑道の果て　金色堂

14：15　皆さんご機嫌でバス乗車　しずか亭全員の見送りをうけて一関駅へ

15：20　やまびこ60にて帰京の途へ

18：24　東京駅で解散しました。

部会長　井村 正陽

カラオケ部会

平成17年度年12回開催、延べ151名（内訳　男性105名　女性46名）の出席を得まして、歌い上げた曲　延べ530曲＋終了時、同期の桜12曲（平均44曲＋1曲）に及びました。

1回の時間は、3時間を原則としております。（延長30分2回及び1時間1回）

夫々の歌い上げた曲目を早見表にして当日お渡ししておりますが、毎回追加追加と、良く覚えているものか、または新規挑戦覚えてくるものか、感心させられるものばかりです。

この他、曲目と歌手名を早見表にとの要望がありますが、これは、追々仕上げてゆきたいと思っております。皆様の協力を得て。

部会長　海口 昭治

ゴルフ部会

去る6月6日、第18回ゴルフ会を、妙義カントリークラブに於いて行いました。生憎の霧で妙義山は見えず残念でしたが、雨も降らず終了することが出来ました。優勝は保井正氏夫人栄子さん（左写真）、二位は村上満氏夫人明子さん（右写真）、三位は浅海幹事長の娘さん三部由夏子さんと女性が独占しました。日頃の練習量の違いで、差をつけられたと思います。コンペパーティーも早々に切り上げバスに乗り帰路につきました。今回は24名の参加でしたが、途中まで好成績だった小池早苗氏が2ホールを残し足を痛め棄権となり残念でした。次回は元気に復帰されることを期待しています。

部会長　大野 利幸

美術・歴史鑑賞部会

次回は、富士山のふもとにある「ビュフェ美術館」と御殿場市の「秩父宮記念公園」を訪ねる日帰りバスツアーを企画中です。

内容は、近く皆様へご案内いたしますが、次を予定しています。その節にはぜひご参加ください。

日　時：9月15日(金)　午前9時目黒駅発
行き先：ビュフェ美術館（三島市）
　　　　秩父宮記念公園（御殿場市）
昼　食：（イタリアン）　マンジャベッシュ
費　用：8,500円（昼食代3,500円・バス・高速道路料・駐車料・入場料等）

部会長　八幡 和三郎

ウォーキング部会　（鎌倉花散歩の会）

当部会は第1回を今年の3月6日に北鎌倉の円覚寺から瑞泉寺にいたる観梅のコースからスタートし、4月の桜、5月のバラ、ツツジ、6月のアジサイの会（参加者13名）へと成長しました。

古都鎌倉文化の残影を偲びつつ、四季の花々と出会い、森林浴をしながら、ストレスホルモン減少によるリラックス効果、スタミナ保持、免疫力向上など健康増進に努めましょう。

＜今後の開催予定＞

・集合は現地駅、午後1時（現地小雨決行）

9/22（金）　北鎌倉駅（ハギ、ヒガンバナ、コスモス）
　東慶寺—浄智寺—岩船地蔵堂—浄光明寺—海蔵寺—英勝寺—寿福寺

10/17（火）　北鎌倉駅（大仏ハイキングコース）
　浄智寺—天柱峰—源氏山公園—銭洗弁財天—佐助稲荷神社—長谷トンネル上—鎌倉大仏

11/22（水）　鎌倉駅東口（イチョウ、フユザクラ）
　獅子舞—杉本寺—報国寺—浄妙寺—明王院

12/11（月）　鎌倉駅東口（カエデ紅葉）
　瑞泉寺—天園ハイキングコース（天園・六国峠—大平山—勝上嶽展望台—建長寺・半僧坊）

是非一度お気軽にお出かけ下さい。

部会長　桑野 祐光

三 土 会

都合により当分の間 次の要領で　開催いたします。

日 時：毎月第3金曜日午後6時より
会 場：「松喜」
住 所：目黒区下目黒2-20-23 第一高田ビル2F
電 話：03-3490-7060
会 費：4,000円

以上です。奮ってご出席下さい。

世話人　土川 俊雄

＊＊＊

編 集 後 記

最近、小・中学校の卒業名簿が作り難くなっていると聞く。

目黒稲門会でも会員名簿を作成しているが、事務局はその取り扱いに慎重を期している。

それは昨年4月に個人情報保護法が施行されたからである。

これらの名簿が同法に抵触すると云う事ではないが、ちょっとした個人情報を基にして関連データを探り悪事を働く人間が出て来たからである。

当会では本年4月、会報をホームページに全文掲載したが、間も無く或る読者よりご忠告を頂いた。

「『住所・氏名・電話・FAX・メールアドレス』が記載されている箇所があるが、思わぬ処で悪用される恐れがある」とのご指摘であった。

「まさか？」とは思ったが、インターネット情報は一瞬にして地球を駆け巡るので、熟慮の結果、個人データが記載された部分は削除することとした。

また、今後はホームページのみならず、会報そのものも、個人情報の扱いには十分留意する事とした。

「個人情報の有用性よりも個人の権利や利益を保護する」という法律の趣旨に沿って…。

（外岡　記）